

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(5年計画の2年目)

1. 研究課題

秦漢法制史料の研究

Study on Legal Texts in the Qin-Han Dynasties

2. 研究代表者氏名

宮宅 潔

MIYAKE Kiyoshi

3. 研究期間

2021年4月-2026年3月(2年目)

4. 研究目的

2003年に湖南大学岳麓書院が購入した岳麓書院所蔵簡には、秦代の裁判史料や数学書その他、大量の法律条文が含まれる。今のところ秦律令(1)～(3)の三冊が刊行され、そこに収録される簡牘は約1000枚にのぼる。これらの条文は、始皇帝による中国統一以降に書写・編集されたのが確実なものであり、初期中華帝国が成立した当初の、国家統治の設計図ともいべき史料である。これまで、「秦代出土文字史料の研究」において当該史料を会読してきたが、本研究班でもそれを継続して行い、訳注を作成する。これと平行して、睡虎地漢簡の会読も行う予定である。こちらの史料は、2006年に湖北省の睡虎地77号漢墓から発見された簡牘群であり、850枚ほどの漢代の律令のほか、いくつかの公文書を含む。これらの条文は前漢の文帝～景帝頃のもので、岳麓簡との間には半世紀程度の時代差がある。この史料が全面公開されたなら、本格的な会読を開始し、秦・漢の法律史料を比較することによって、初期帝国の変容を跡づけることを目指したい。

The Yuelu Qin strips, which were purchased by the Yuelu Academy of Hunan University in 2003, contain a large volume of texts of Qin statutes and ordinances, together with records of exemplary criminal cases and writings on mathematical procedures. To date, three volumes of Qin statutes and ordinances have been published, including some 1,000 bamboo strips. Almost certainly, these texts were written and edited after unification by the First Emperor. Thus, these laws could be said to be the foundational principles of the government at the very beginning of the early Chinese empire. In this project, taking on board the findings of an earlier project, "Study on the Excavated Manuscripts of the Qin Dynasty", we will read these texts and progressively publish annotated translations. In addition, it is planned to read the Shuihudi Han strips, which were excavated from Tomb No.77 in Shuihudi, Hubei Province,

in 2006. Around 850 strips of Han statutes and ordinances, as well as several official documents, are included therein. These manuscripts are dated in the reign of Han Emperors Wen and Jing; there is almost a half-century time difference from the Yuelu Qin strips. Following publication of Shuihudi, we will start reading it and analyzing the transformation of the early Chinese empire by comparing the Han legal texts against those of the Qin Dynasty.

5. 本年度の研究実施状況

まず、岳麓書院所蔵簡《秦律令（壹）》に見える法律用語の分析や、掘り下げるべき条文の検討についての研究報告を行った。この報告内容を基に研究ノートを班員が執筆し、《秦律令（壹）》全体の訳注とともに一書にまとめる編集作業を進めた。この訳注書は年度内に完成し、関連する研究者に配布した。同時に、《秦律令（貳）》の会読を始め、約50簡を読了した。里耶秦簡〔壹〕の会読もこれと平行して行い、これについては関係論文を中国・武漢大学のHP「簡帛網」に投稿し、掲載された。

6. 本年度の研究実施内容

2022-04-01 岳麓簡訳注考証篇予備発表 上計 発表者 曹天江 清華大学 「廢」と官人処罰の変化 発表者 郭 聡敏 立命館大学

2022-04-08 岳麓簡訳注考証篇予備発表 故塞・故徼 発表者 太田 麻衣子 国士舘大学 蜀巴一関連問題の考証 発表者 楊 長玉 雲南民族大学

2022-04-15 岳麓簡訳注考証篇予備発表 岳麓〔肆〕341～342簡の考察 発表者 目黒 杏子 京都府立大学 居縣 発表者 安永 知晃 関西学院大学

2022-04-22 岳麓簡訳注考証篇予備発表 行書律について 発表者 畑野 吉則 立命館大学 同居一世帯構成員を指す法律用語 発表者 鷲尾 祐子 立命館大学

2022-05-06 岳麓簡訳注考証篇予備発表 嶽麓〔肆〕366～371簡「毋奪田時令」をめぐる一律令と官箴のあいだー 発表者 佐藤 達郎 関西学院大学 論令出會之 発表者 鷹取 祐司 立命館大学

2022-05-13 岳麓簡訳注考証篇予備発表 名詞の後につく「所」 発表者 角谷 常子 奈良大学 岳麓書院所蔵簡《秦律令（壹）》解題 発表者 宮宅 潔

2022-05-20 岳麓簡会読 岳麓〔伍〕1-11 発表者 宮宅 潔

2022-05-27 岳麓簡会読 岳麓〔伍〕1-11 発表者 宮宅 潔

2022-06-03 岳麓簡会読 岳麓〔伍〕1-11 発表者 宮宅 潔

2022-06-10 岳麓簡会読 岳麓〔伍〕12-18 発表者 西 真輝 文学研究科

2022-06-17 岳麓簡会読 岳麓〔伍〕12-18 発表者 西 真輝 文学研究科

2022-06-24 岳麓簡会読 岳麓〔伍〕12-18 発表者 西 真輝 文学研究科

2022-07-01 岳麓簡会読 岳麓〔伍〕12-18 発表者 西 真輝 文学研究科

2022-07-08 岳麓簡会読 岳麓〔伍〕12-18 発表者 西 真輝 文学研究科

2022-07-15 岳麓簡会読 岳麓〔伍〕 19-29 発表者 宗 周太郎 文学研究科
2022-07-22 岳麓簡会読 岳麓〔伍〕 19-29 発表者 宗 周太郎 文学研究科
2022-07-29 岳麓簡会読 岳麓〔伍〕 19-29 発表者 宗 周太郎 文学研究科
2022-09-02 岳麓簡会読 岳麓〔伍〕 19-29 発表者 宗 周太郎 文学研究科
2022-09-09 里耶秦簡会読 里耶秦簡⑧1110～⑧1143 発表者 目黒 杏子 京都府立大学
2022-09-16 岳麓簡会読 岳麓〔伍〕 30-38 発表者 土口 史記 岡山大学
2022-09-30 里耶秦簡会読 里耶秦簡⑧1188～⑧1221 発表者 畑野 吉則 立命館大学
2022-10-14 里耶秦簡会読 岳麓〔伍〕 30-38 発表者 土口 史記 岡山大学
2022-10-21 岳麓簡会読 里耶秦簡⑧1222～⑧1243 発表者 宮宅 潔
2022-10-28 里耶秦簡会読 岳麓〔伍〕 30-38 発表者 土口 史記 岡山大学
2022-11-04 岳麓簡会読 里耶秦簡⑧1222～⑧1243 発表者 宮宅 潔
2022-11-18 里耶秦簡会読 岳麓〔伍〕 39-47 発表者 太田 麻衣子 国士舘大学
2022-11-25 岳麓簡会読 里耶秦簡⑧1222～⑧1243 発表者 宮宅 潔
2022-12-02 里耶秦簡会読 岳麓〔伍〕 39-47 発表者 太田 麻衣子 国士舘大学
2022-12-09 岳麓簡会読 里耶秦簡⑧1222～⑧1243 発表者 宮宅 潔
2022-12-16 里耶秦簡会読 岳麓〔伍〕 39-47 発表者 太田 麻衣子 国士舘大学
2022-12-23 岳麓簡会読 里耶秦簡⑧1313～⑧1353 発表者 劉 聡 岡山大学
2023-01-06 岳麓簡会読 岳麓〔伍〕 39-47 発表者 太田 麻衣子 国士舘大学
2023-01-13 里耶秦簡会読 里耶秦簡⑧1313～⑧1353 発表者 劉 聡 岡山大学
2023-01-20 岳麓簡会読 岳麓〔伍〕 48-55 発表者 林 怡冰 文学研究科
2023-01-27 里耶秦簡会読 里耶秦簡⑧1313～⑧1353 発表者 劉 聡 岡山大学
2023-02-03 岳麓簡会読 岳麓〔伍〕 48-55 発表者 林 怡冰 文学研究科
2023-02-10 里耶秦簡会読 里耶秦簡⑧1313～⑧1353 発表者 劉 聡 岡山大学
2023-02-17 岳麓簡会読 岳麓〔伍〕 48-55 発表者 林 怡冰 文学研究科
2023-02-24 岳麓簡会読 里耶秦簡⑧1313～⑧1353 発表者 劉 聡 岡山大学
2023-03-03 里耶秦簡会読 岳麓〔伍〕 48-55 発表者 林 怡冰 文学研究科
2023-03-10 岳麓簡会読 里耶秦簡⑧1354～⑧1391 発表者 飯田 祥子 古代学協会
2023-03-17 里耶秦簡会読 岳麓〔伍〕 56-62 発表者 劉 聡 岡山大学

7. 共同研究会に関連した公表実績

『岳麓書院所蔵簡《秦律令（壹）》訳注』の出版

国際シンポジウム「中国古代軍事史の多角的検討」（12月10～11日）の開催

8. 研究班員

所内

宮宅潔、古勝隆一、野原将揮、藤井律之、陳捷、安永知晃

宗周太郎(文学研究科)、斎藤賢(文学研究科)、西真輝(文学研究科)、林怡冰(文学研究科)、章瀟逸(人間環境学研究科)

土口史記(岡山大学)、目黒杏子(京都府立大学)、角谷常子(奈良大学)、鷹取祐司(立命館大学)、佐藤達郎(関西学院大学)、郭聡敏(立命館大学)、畑野吉則(立命館大学)、金秉駿(ソウル大学)、楊長玉(雲南民族大学)、曹天江(清華大学)、太田麻衣子(国土館大学)

9. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数 (必須)	受入人数					延べ人数				
		総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生
学内(法人内)		11	3	5	5	5	345	74	190	190	190
		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(40)	(40)	(40)	(40)	(40)
国立大学		2	1	1	1	1	78	39	39	39	39
公立大学		1	1				40				
		(1)					(40)				
私立大学		4	6	1	2	2	239	41	79	41	41
		(3)	(1)	(1)	(1)	(1)	(119)	(41)	(41)	(41)	(41)
大学共同利用機関法人											
独立行政法人等公的研究機関											
民間機関		1	1				41				
		(1)					(41)				
外国機関		3	3	3	2	2	110	102	78	78	39
		(2)	(2)	(2)	(1)	(1)	(79)	(79)	(79)	(38)	(38)
その他 ※											
計		10	24	8	10	10	853	256	386	348	309
		(8)	(4)	(4)	(3)	(3)	(319)	(160)	(160)	(119)	(119)
※「その他」の区分受入がある場合 具体的な所属等名称を記載：例) 高校教員 無所属の場合は機関数0とカウントし、この欄の記載不要											

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数			
			うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研に所属する者のみの論文(単著・共著)	5		2	
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文(共著)	1			
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	11			
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文(共著)				
⑤国外の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	2			

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適当ではない分野等

	雑誌名 (必須)	掲載論文数 (必須)	掲載年月日 (必須)	論文名 (必須)	発表者名 (必須)
1	中国史研究動態	1	R4.10	21 世紀以来日本学界秦漢史研究新進展	宮宅 潔
2	東方学報	1	R4.12	岳麓書院所蔵簡《秦律令(壹)》訳注稿 その四	「秦漢法制史料の研究」班(宮宅 潔他)
3	簡帛網	1	R5.2	《漢簡語彙考證》訂補(六)―“文母害”	安永知晃
4	『岳麓書院所蔵簡《秦律令(壹)》訳注』	16	R5.3	廷内史郡二千石官共令 など 16 篇	宮宅 潔 他計 15 名

11. 本年度共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

	研究書の名称	編著者名	発行年月	出版社名
1	岳麓書院所蔵簡《秦律令（壹）》訳注	宮宅 潔	R5.3	汲古書院

12. 本年度博士学位を取得した学生の数

	人数
博士学位を取得した学生の数	1

13. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由
なし

14. 次年度の研究実施計画

引き続き《秦律令（貳）》の會讀を進め、その成果の一部を『東方学報』誌上に発表する予定である。あわせて、里耶秦簡（壹）の会読も継続して行う。これと同時に、武漢大・ソウル大との共催でオンラインの研究会を開催し、研究班での討議内容について、国外の研究者とも意見を交換する。

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

会読の成果を「岳麓書院所蔵簡《秦律令（貳）》譯注稿 その（一）」として『東方学報』誌上に発表する。